

未来社会創造事業（探索加速型）
「個人に最適化された社会の実現」領域
終了報告書（探索研究）

令和3年度採択研究開発代表者

[研究開発代表者名:飯島 勝矢]

[東京大学未来ビジョン研究センター・教授]

[研究開発課題名:新価値 IKIGAI 駆動による社会貢献活動の個人最適化]

実施期間：令和3年10月1日～令和6年3月31日

§1. 研究実施体制

(1)「支え手側における新価値 IKIGAI の計測と定量化、IKIGAI 場づくり」グループ(東京大学)

① 研究開発代表者: 飯島 勝矢 (東京大学未来ビジョン研究センター、教授)

② 研究項目

- ・ IKIGAI 計測・特徴量の抽出、客観指標の開発
- ・ IKIGAI マップによる可視化
- ・ IKIGAI マップの利活用、介入のデザイン・開発
- ・ 地域貢献活動従事者(例、フレイルサポーター)が「新たな価値観を含んだ生きがい」を感じる状況や場面の実態調査・解析
- ・ 活動者個々人の IKIGAI 軌跡(経時的変化)の可視化と分析・類型化
- ・ 他の地域活動(例: 趣味、学習、スポーツなど)への発展的応用展開

(2)「支え手側 IKIGAI の新たな仮説モデル構築」グループ(西武文理大学)

① 主たる共同研究者: 菅原 育子 (西武文理大学サービス経営学部、准教授)

② 研究項目

- ・ 「生きがい」に関連する心的状態に関する諸概念および主観指標の整理
- ・ 地域貢献活動従事者(例、フレイルサポーター)を対象とした質的調査による新価値 IKIGAI の仮説モデル構築
- ・ 地域貢献活動従事者を対象とした量的調査による IKIGAI の主観指標の開発・測定
- ・ フレイルサポーター活動現場における、主観指標に結び付けた客観指標 IKIGAI の検証

§2. 研究開発成果の概要

本研究は地域貢献活動における「地域高齢住民の支え手側」の生きがい感を、①目的・動機づけや達成感、②継続性を生む本人の居心地良さと継続性、③他者とのつながりを基盤とする地域貢献・関係の 3 要素と成す新概念「新価値 IKIGAI」を再構築し、個々の主観に基づく活動中の感情や行動情報から、その新たな生きがい感を客観的に可視化・定量化することを目的とした。令和4年度は、地域貢献活動の支え手側である高齢住民フレイルサポーターを対象に、多くの活動経験に対しインタビュー及びアンケート調査を実施し、上記 3 要素の質的・量的変化の関連性を構造化し、IKIGAI の可視化を行った。

具体的には、「新価値 IKIGAI」の仮説モデル検証として、以下である。

- ① フレイルサポーターを対象としたインタビュー調査を実施し、社会貢献活動を通して経験する多面的な生きがい感の具体的な要素を抽出した。
- ② その結果をもとに質問項目案を作成し、社会活動を行う幅広い一般成人 1290 名(高齢者以外の世代も含む)を対象とした Web 調査によって、IKIGAI 主観指標の因子構造の妥当性を検討した。
- ③ Web 調査を踏まえ、多様な生きがい感の主観指標項目を改良し、(1)全国フレイルサポーター(2000 名弱)への再評価、(2)東京都西東京市モデル地域のフレイルサポーター 20 名を対象に、主観指標および客観指標の両方の測定を行い、IKIGAI の主観データを基盤としながら客観データの整合性を検討した。ちなみに、新価値 IKIGAI の客観指標として、(i)音声、(ii)表情、(iii)姿勢、(iv)活動量(歩数、心拍数)から特徴量を抽出し、更に社会参加・交流の情報として(v)会話量及び発言内容、(vi)インタラクション状況を解析した。

以上の段階を踏み、新価値 IKIGAI の 3 要素(H/E/S)の主観測定値を基盤としながら、客観データの対応付けを行った。さらに、特異値分解と座標変換の組み合わせにより、3 要素それぞれの指標に分解・パターン化し低次元化する手法を考案し、主観データのクリアな可視化を行った。

【代表的な原著論文情報】

1. Matsuda Y, Baba A, Sugawa I, Son BK, Iijima K. Multi-faceted Well-being Experienced by Community Dwelling Older Adults Engaged in Volunteering Activities of Frailty Prevention in Japan. *Geriatr Gerontol Int.*2024;24 Suppl 1:273-278. doi: 10.1111/ggi.14826.
2. 松田 弥花, 馬場 絢子, 菅原 育子, 孫 輔卿, 飯島 勝矢. 地域活動に従事する高齢者の Well-being 概念に関する文献研究. 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究. 3, 2022, 163-172. doi. <https://doi.org/10.15027/53391>.
3. Son BK, Miura T, Yabu K, Sumikawa Y, Kim DY, Lyu W, Yang Y, Tanaka M, Tanaka T, Yoshizawa Y, Iijima K. The Co-Design/Co-Development and Evaluation of an Online Frailty Check Application for Older Adults: Participatory Action Research with Older Adults. *Int J Environ Res Public Health* 2023; 20(12):6101; <https://www.mdpi.com/1660-4601/20/12/6101>